

二三、局外者の關心

丹那トンネルは、今日迄絶えず大小新聞や雑誌に、いろいろの意味で書き立てられ、社會的に有名になつたので、自然一般の人々の注意を引きました。其の爲めか、いろいろの投書が、之れまでに舞ひ込んだ事があります。元より無責任な投書ですから、とるに足らないものばかりですが、併し中にはシンプロンの様なトンネルでさへ單線一本で掘られてゐる、丹那も單線二本に建設する様にしたらどうかと云ふ様な眞面目な投書もありました。丹那が一寸出来さうもない、中止だ、放棄だと云ふ説が世間に出ると、必ず「萬歳」やめて仕舞へ」と云ふ投書がありました。消印を見ると現在の箱根線の某々局とありますから恐らく丹那開通の曉、裏通りとなる現在の東海道線關係の地方の者らしいのです。毛色の變つて奇抜なのは、ある神主からの投書です。之に因ると現在の世界は、ある時期に一大變化を來たす。それは地球が數萬年前に氷河時代を繰返した事であるから、又そんな地上の變化が必ずある。其の時に色々の理由で現況のまゝ残るのは伊豆半島である。さうすればこの伊豆半島の地下千尺を通る丹那トンネルの中央に近い部分に、人間の裸體像——成人男女と子供——を埋めて置けば、この氷河の破壊時代をすぎ、次に地球上を征服するものに、自分の前時代の地球征服者の姿を知らせる事が出来る。だから、是非丹那トンネルに男女の裸像を埋めると云ふのです。

投書はまだよい方で、直接本人がやつて來て、いろいろナンセンスを申出てるのには困る事がありました。日蓮の坊さんが來て、坑門口で御經を上げて呉れたのは、有難い方で、中には或る海軍豫備將校が法華經の功德を以て、湧水を止めて見せるから祭壇を作つて準備をして呉れと、再三事務所に行つてきました。先方が至極眞面目なんですから、當時の所長池原氏も應待に苦しんで、宗教上の大論戰をやつて追ひ返へした事もあります。又堂々たる一紳士が訪れて、トンネルが難工事で困つてゐるのは、殉難者の靈が、未だ成佛しないで迷つてゐるからだ、眞面目に忠告した事もありました。いやそればかりではなくトンネル作業に従事してゐるものの中にも、成田山のお告げで右側に坑を掘れば水が切れるとか、天理教の神様のお告げでは左に廻ればすぐ貫通するとか、云ひ出して困つた事もあります。